

ZETV調査報告

疑問に答えていない

エキメンタリー番組に事実と異なる字幕をつけて放送した問題で、NHKが先週、調査報道をまとめた。「原因や背景を報道機関として可能な限り自ら解明」する姿勢で臨んだというが、視聴者の疑問に答えるにはほど遠い内容だ。

東京五輪公式記録映画の総監督を務める河瀬直美さんに密着した番組である。映画チームのスタッフが取材している人物の映像とともに、「五輪反対デモに参加してこられた男性」「実はお金も借りて動員されていると打ち明けた」といった字幕が映し出された。

河瀬監督は「誤り」だった。報告書によると、担当ディレクターは確認を怠り、上記の字幕がつかなかつたといい。様々な反響を呼ぶのが容易に想像できるシーンだ。なのに何人のチェックを通り抜けたのか。報告書には「放送される結果」とは、NHKの五輪放

ある」とがとのよつた意味合いを持つか、ところの認識が（関係者の）いざれも欠落してしまった」と書かれているだけだ。

「欠落」した原因に切り込んで、その検証だし、再発防止に不可欠の作業なのに、中途半端のまま放り出されてくる。

映画チームとNHKの関係についても「必要なやりとりを行なうことができました」とあるだけ、やはりこの男性の取材に関しては「やつぱり」があつたのか詳細は不明だ。隠靴搔痒の感は否めない。

NHKは監督責任を含めて6人を処分し、チャック体制の強化などを打ち出した。だが、問題を矮小化して隠匿を図るのをしてくる疑惑は拭えず、そのような調査報告の上に立つて、見」が相次いでとじて、審議入りを決めた。企画の提案段階から制作過程、そして調査報告書の作成・公表まで、全体を見渡すのも、説得力を欠く。

今回の問題に厳しい目が注がれていたのは、ZETVの放送倫理・番組向上機構（B.R.O.）の放送倫理検証委員会は、審議から「取材、編集、考査、調査の各段階で問題があるのではないかといった厳しい意見」が相次いでとじて、審議入りを決めた。企画の提案段階から制作過程、そして調査報告書の作成・公表まで、全体を見渡すのも、説得力を欠く。

専金般への不信がある。政府に提出した事業計画には「大会の盛り上げに寄与する」と明記されている。経営の大方針が隅々に及び、ニュースや制作の現場にも影を落としているのではないかといつた疑念だ。